

3・4・5歳児 実践園報告

私たちの喜び

認定こども園 龍谷幼稚園 園長 坂本 るみ



当園の朝は、好きな場所と遊びを選択できる「遊びバイキング」から始まります。園内外を自由に行き来し、とにかく好きなことをしてたっぷり遊ぶ時間。登園時あるいは前日の降園時から今日（明日）は何して遊ぶのか？と期待する姿が見られています。数年前「子どもの主体性とは」と考えた時、まずは選択できる環境を整えよう！とこの活動を取り入れたのですが、園児が選択できる環境を少しずつ整えていくと、それまでの活動に違和感を覚えるようになりました。まずは運動会。運動会の練習って必要？何のためにするの？と見直しが始まりました。遊戯や競技も全て毎日練習、先生の指示通り活動することを強いる。「主体性」など何処にもありません。これは最初に廃止することを決め、運動会は



園児だけでなく親子で楽しもう！と親子運動会に切替えました。親子で走ったり踊ったり参加者全員で楽しむ1日に。このような行事の見直しを進めていくと、先生たちから母の日の制作について疑問が出ます。感謝を伝えるために全員同じ制作をする必要がある？確かにその通りだと思いましたが、まず子どもたちへ委ねてみることに。すると、いつもありがとうって言う！お手伝いする！プレゼント作りたい！それぞれ違う感謝の形が見えてきました。大切にしたのは、なぜ母の日があるかを話し合い、そこからどうするかを自分で決めて実行することでした。自ら考えることで、自然にお母さんへ感謝の気持ちが芽生えたようにも見えました。この頃から一斉の制作活動はせず、個々に遊びの中で廃材を

利用して制作を楽しむというスタイルになります。母の日について話し合う場にもなった「りゅうこくタイム」という先生と子どもたちが話題を共有し意見を出し合う時間。当園では、この時間をとても大切にしています。先生が話題を提供する場合が多いのですが、年長クラスはいつの間にか、喧嘩や腑に落ちない出来事があった時に「話し合おうよ！」と子ども同士が数名で輪になって話し合う姿がみられるようになっていったのです。

主体性を持って平和的に解決する姿に成長を感じるだけでなく、私たち保育をする側に喜びと前向きな心を与えてくれました。